

ご参考

2005年4月25日

富士重工業 次期固定翼哨戒機の中央翼を初出荷

富士重工業は、本日4月25日に防衛庁が開発を進めている次期固定翼哨戒機（P-X）の分担製造部位のうち、航空宇宙カンパニー宇都宮製作所半田工場（愛知県半田市）で組み立てた、主翼の構成部品である中央翼（全機静強度試験機用）を初出荷した。

次期固定翼哨戒機は、防衛庁が現有の哨戒機 P-3C の後継機として、次期輸送機（C-X）とともに2機種同時に開発を進めているものであり、富士重工業は、主翼および垂直尾翼の試作を担当している。

同機体は、三次元設計（CATIA）を全面的に適用したことにより、従来機に比べて大幅な開発期間の短縮と効率の向上、不具合削減などの効果が得られており、当初計画どおり今回の出荷にいたったものである。

今後は、主契約企業の川崎重工業において全機静強度試験機が完成され、防衛庁において各種試験が開始される予定となっている。



次期固定翼哨戒機 中央翼（全機静強度試験機用）